



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 2020年 野球殿堂入り通知式

館長 庄司 正信

1月14日(火)、野球殿堂博物館を臨時休館として、午後2時より当館の殿堂ホールにおいて、2020年「野球殿堂入り」通知式をマスコミと維持会員の皆様をお招きして行いました。

競技者表彰・プレーヤー表彰は、競技者表彰が08年にプレーヤー表彰とエキスパート表彰に分かれて以来、初の該当者無しとなりました。エキスパート表彰では、現役時代は阪神、西武で活躍、引退後はダイエー(現ソフトバンク)の監督、阪神、日本代表、楽天などでコーチを務めた田淵 幸一さんが選出されました。特別表彰からは、元慶應義塾大学野球部監督の前田 祐吉さん、元早稲田大学野球部監督の石井 連藏さんが選出されました。

齊藤 惇理事長から本年度野球殿堂入りの発表、挨拶に続き、永瀬 郷太郎代表幹事より競技者表彰委員会、また池田 哲雄議長より特別表彰委員会の選考過程について各々報告がありました。続いて、殿堂入り通知書の授与が行われ、顕彰者の挨拶が行われました。まずは、競技者表彰エキスパート表彰の田淵さんから、「松永 怜一さん(07年殿堂入り)に野球のいろはを教わり、野球人生が始まった」と恩師への感謝の言葉がありました。また、ドラフトの際の話なども語っていただきました。

特別表彰で選出された前田さんのご子息 前田 大介さんは、「自分たちももちろんだが、三田倶楽部(慶應義塾大学野球部 OB会)の皆さんに喜んでいただけるのがうれしい。」と喜びを語りました。

また、石井さんのご子息 石井 拓藏さんは、「そうそうたる殿堂入りのメンバーの中に父が入っていただけることを、父も喜んでいることと思います。」と話されました。引き続きゲストスピーチに移り、法政大学で田淵さんとバッテリーを組んだ後輩の山中 正竹さん(16年殿堂入り)は「いちアマチュア選手が神宮球場にこれほどのお客さんをお呼んだことは、大きな野球界への貢献だった。」と先輩の功績を称えました。

前田さんには、教え子で前慶應義塾大学野球部監督の大久保 秀昭さんが、「フレンドリー、朗らかで、いろいろなことを教えてくださいました。」と感謝の言葉を述べられました。石井さんには、同じく教え子で早稲田大学野球部監督の小宮山 悟さんから、「鬼の連藏と呼ばれていたが、自分にとっては仏だった。」と恩師の印象について語っていただきました。

最後に、殿堂入りされた方々とゲストスピーカーなどを交えた記念撮影を行いました。

なお、顕彰者、来賓の方々のご挨拶などは

[http://i.baseball-museum.or.jp/baseball\\_hallo/news/halloffame2020\\_02.html](http://i.baseball-museum.or.jp/baseball_hallo/news/halloffame2020_02.html) をご覧ください。



後列左より 山中 正竹氏、大久保 秀昭氏、小宮山 悟氏  
前列左より 田淵 幸一氏、齊藤 惇理事長、前田 大介氏、石井 拓藏氏

懇親会

昨年に引き続き、野球殿堂入りをされた皆様、齊藤理事長を始め関係者の方々にご出席をいただき、通知式後の懇親会を東京ドームホテルで行いました。

当日は前田さんのお孫さんたちも駆けつけてくださり、約35人が参加されました。1時間位の小宴でしたが、和気藹々親睦を深めることができました。



通知式動画

## 2020年野球殿堂入り

### 競技者表彰委員会

第60回競技者表彰委員会は、エキスパート表彰で歴代11位となる通算474本塁打を放った田淵 幸一氏を令和初の野球殿堂入りに選出した。

プレーヤー表彰は現役を引退して5年を経過し、かつ引退から21年未満の有資格者の中から幹事会が選んだ21人の候補者を対象に、15年以上の野球報道経験を持つ361人の委員のうち354人から最大7人連記の投票があった。

東北楽天イーグルスが仙台に誕生して15年が経過し、東北運動記者会に所属する委員が新たに加わった。

無効票はなく有効投票数は354。最大7人連記の投票で投票総数は1,903。委員1人平均5.4人の投票は、前回の平均5.2人を0.2人上回った。

しかしながら、有効投票数の75%にあたる当選必要数266票を超えた候補者はいなかった。

競技者表彰がプレーヤー表彰とエキスパート表彰の2部門に分かれた2008年以降、プレーヤー表彰で当選者が出なかったのは初めてのことになる。

最多得票は高津 臣吾氏の259票で、有効投票数の73.2%。前回の60.6%から大きく伸ばしたが、当選必要数にわずかに7票及ばなかった。高津氏に続いたのは65.8%にあたる233票を獲得したアレックス・ラミレス氏。こちらも前回の40.4%から大きく票を伸ばした。

さらに川相 昌弘氏が前回の50.7%から61.6%に伸ばす218票、宮本 慎也氏も41.2%から58.2%に伸ばして206票を獲得した。

残念ながら今回は殿堂入りが出なかったものの、上記4氏は得票率が50%を超えており、今後の伸びが期待できそうだ。

エキスパート表彰は幹事会が選んだ16人の候補者を対象に、すでに野球殿堂入りしている方と競技者表彰委員会の幹事、野球報道に関して30年以上の経験を持つ委員、合計138人のうち135人から最大5人連記の投票があった。

こちらも無効投票はなく、有効投票数は135。投票総数564で前回同様1人平均4.2人の投票となった。

その結果、有効投票数の80.7%にあたる109票を獲得した田淵氏が殿堂入りとなった。

同氏は法政大学時代、当時の東京六大学野球リーグ記録となる通算22本塁打を放ち、強肩強打の捕手として1968年ドラフト1位で阪神に入団。滞空時間の長いホームランでファンを魅了し、「天才ホームランアーチスト」と呼ばれた。

西武移籍後は82年から2年連続日本一に貢献し、83年には正力松太郎賞に選出された。



田淵 幸一氏

引退後はダイエー（現ソフトバンク）の監督、阪神、北京五輪、楽天でコーチを歴任した。

競技者表彰の投票については2008年にプレーヤー部門で211票を獲得したが、当選必要数231票に20票及ばず、年数切れでエキスパート表彰の候補に回っていた。

13年目を迎えたエキスパート表彰で5年連続殿堂入りが出るのは初めて。田淵氏はエキスパート表彰10人目の選出となった。

次点は65.9%にあたる89票を獲得したランディ・バース氏、さらに45.9%の62票を集めた掛布 雅之氏が続き、元阪神のスラッガーがズラリと並ぶ結果となった。

競技者表彰委員会代表幹事 永瀬 郷太郎

### 特別表彰委員会

第59回特別表彰委員会の投票が、2020（令和2）年1月8日午後2時から、東京・文京区後楽の東京ドームホテル「初音の間」で行われた（通知式は1月14日）。

今年は、昨年特別表彰委員会から殿堂入りした脇村 春夫氏と、2名の候補者を除き、新たな3名を加えた計10名の候補者によって、投票が行われた。

投票委員は計14名。規程により殿堂入りには有効投票の75%以上の得票を必要とする。投票の結果、今年は前田 祐吉氏と石井 連藏氏の2名が晴れて殿堂入りの栄誉に輝いた（前田氏は14票中12票、石井氏は14票中11票を獲得）。



## 2020年野球殿堂入り

前田氏は1930（昭和5）年9月22日生まれ。2016（平成28）年1月7日没（85歳）。

高知県立高知城東中（現高知県立高知追手前高）在学中の46（昭和21）年、全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高等学校野球選手権大会）に投手として出場。翌47（昭和22）年には、春の選抜大会でベスト4まで勝ち進む。

49（昭和24）年、慶応大学入学。在学時には、投手、外野手として活躍。計3回の優勝を経験した。

54（昭和29）年、ニッポンビール（現サッポロビール）在籍2年目に主軸打者として、チームの都市対抗初出場に貢献。59（昭和34）年、監督としても、都市対抗に出場した。

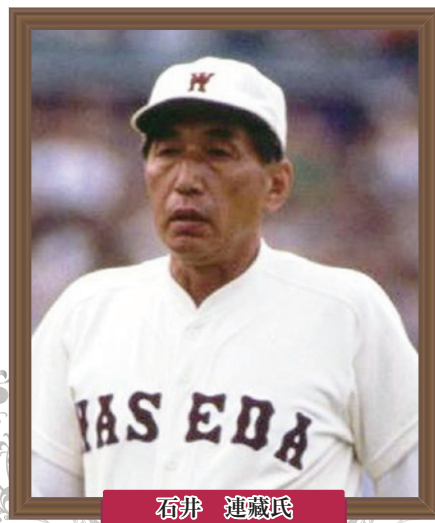
60（昭和35）年、母校・慶大の監督就任。就任直後の秋、早慶戦で慶大は1勝2敗で、勝ち点を落とし、早大に勝ち点4、9勝4敗で並ばれる。優勝決定戦の1、2戦は引き分けに終わるも、慶大は第3戦を落とし、早大に優勝をさらわれる。だが、「早慶6連戦」は球史に残る名勝負として後世に語り継がれることになった。

82（昭和57）年、母校の再建を託されて、二度目の監督就任。85（昭和60）年秋のリーグ戦で、慶大野球部としては史上二度目の10勝0敗1分で完全優勝を飾り、指揮官として見事に期待に応えたのだ。

94（平成6）年から全日本アマチュア野球連盟の強化対策委員長として、96（平成8）年のアトランタ五輪での銀メダル獲得に裏方として貢献。さらに97（平成9）年から、アジア野球連盟の事務局長として、加盟20の国・地域と密接な関係を構築し、アジアカップ、アジア大会などの大会を運営。国際貢献と野球発展途上国の支援にも尽力した。



前田 祐吉氏



石井 連藏氏

石井氏は、1932（昭和7）年6月26日生まれ。2015（平成27）年9月27日没（83歳）。水戸第一高から早稲田大学へ進むと、2年生からエースとして、東京六大学リーグで通算21勝を記録する大活躍を見せた。4年生時には「主将・エース・四番打者」として、首位打者と最多打点の二冠に輝き、秋のリーグ優勝の立役者となった。

55（昭和30）年、日本鋼管（現JFE）に入社すると、56年の都市対抗では、日本石油（現JX-ENEOS）の補強選手として、同チームの初優勝に貢献。57（昭和32）年、母校・早大野球部のコーチに就任。翌58（昭和33）年、前任の森 茂雄監督（77年殿堂入り）の退任に伴い監督の座に就いた。その中でも特筆すべきは、60（昭和35）年秋、伝説の「早慶6連戦」の指揮官として母校を優勝へ導いた功績である。早大のエース・安藤 元博は、6連戦で5試合に登板して5完投。49回を自責点3に抑える超人的な快投を見せた。

65（昭和40）年から93（平成5）年まで朝日新聞社に在籍。72（昭和47）年、早大監督時代の教え子だったドジャース会長補佐・生原 昭宏氏（02年殿堂入り）の協力を得て、日本野球界の悲願であった日米大学野球選手権大会の実現に尽力した。

88（昭和63）年、2度目の早大監督に就任。90（平成2）年春、8年15シーズンぶりの優勝を実現させた。

奇しくも、今年には伝説のヒーローを生んだ「早慶6連戦」から60年の節目の年を迎えている。「エンジョイベースボール」の理念を掲げた前田氏と、早大初代監督・飛田 穂洲（60年殿堂入り）が唱えた早稲田野球の原点「一球入魂」の精神を受け継ぐ石井氏は、ともに日本野球の戦後の激動期と黄金期を駆け抜けた野球人として人々の記憶の中で永遠に輝き続けることだろう。

特別表彰委員会議長 池田 哲雄  
（3氏の写真はベースボール・マガジン社提供）



山内 以九士氏

## 殿堂入りの人々を語る(66)

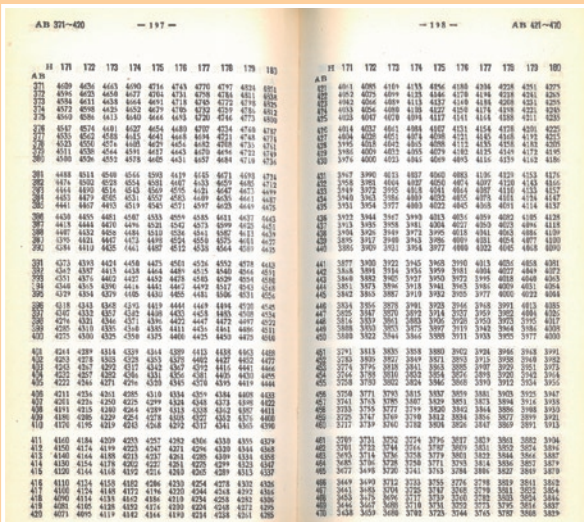
### 『ベースボール・レディ・レコナー』製作顛末記

山内 了一 (1985年野球殿堂入り 山内 以九士氏長男)

野球の試合が始まる時は、アンパイアの「プレー」の掛け声で始まり、終わった時は「ゲーム」で終了。プレーボールとか、ゲームセットが一般的に使われているが、本当は間違っている。これが父が私に教えてくれた野球規則の唯一の話です。これ以外は野球規則について何も聞いたことがありません。昭和13(1938)年職業野球に関係するようになってから、私も野球を見るようになりましたが、いつも父と一緒に、記録員席の隣に座らされて観戦していました。そのため小さかった私は、近くにいる新聞記者の方々にとっても可愛がって頂きました。

また、時々有名な選手が来て、ヒットやエラーを問い質しているのを聞いたこともありました。従って野球はバックネット裏の記録員席以外で見たことがなく、学生時代に六大学野球の応援にかり出され外野席で見た時は、あまりに遠くて全く興味が湧きませんでした。側にはいましたが、父が野球に関して何を考えているか、全くわかりませんでした。

戦争が終わって、愈々野球が再開された頃だったと思いますが、父が手動式のタイガー計算機を、ガラガラ廻している姿を見るようになりました。海軍技術将校だった姉の主人が帰還してきましたが、全く手に職がなく、収入がなかったものですから、父は姉にお小遣いを渡す名目で、タイガー計算機を廻し始めさせました。これが父が「打率早見表」の作成を考えているのを知った最初でした。姉の大変な苦勞によって早見表の計算は完成しました。しかし、数字だけの印刷を引受けてくれる印刷会社はなく、大変困ったようです。どのように計画を考えたか、その経緯は全くわかりませんが、新聞記者の中で最も信頼し、親しくしていた読売新聞社の本阿弥 清さんに相談し、新聞社の植字工の人と個人的関係をつけて、活字を拾ってもらうようにしたようです。場所も適当な場所がなかったので新婚間もない本阿弥さんの狸穴の新居の一室を植字室にして、数字の活字をずらっと並べて仕事を始めました。暫くこの状態が続きましたが、突如植字工の人が、どういふわけか来なくなり、父が活字を拾い始めました。しかし、長くは続かずその仕事が私に降りかかってきたのです。大学の帰りに本阿弥家に寄り、活字を夜遅くまで拾う毎日が続きました。何年かけてどの位拾ったか覚えておりませんが、お蔭でその報酬として、当時貴重品であった中古の携帯用の仏文タイプライターを買ってもらい、大学院の修士論文を作成することが出来ました。私は昭和31(1956)年に大学院を修了して東京を離れましたので、その後は、父が寄宿していた父の妹の家の息子二人を使って活字を拾わせたり、文京区の江戸川橋近くの印刷所まで運ばせたりしたそうです。このようにして、351ページで約70万字の数字だけが詰まったレコナーが完成したのです。完成したレコナーは早速国の内外の野球関係者たちの手に渡り、忽ち有名になり、沢山の人々が重宝することになったことは周知の通りです。



『ベースボール・レディ・レコナー』(1954年発行) 打数371~470、安打171~180のページ

翻って考えてみますと、一体「山内 以九士」と云う人物は、どのような構想でこのような仕事をしようとしたのでしょうか。私共家族は、ちっとも苦勞したとは思っていませんが、最大の犠牲者は本阿弥夫妻で、その他沢山の人々を平気で使い、莫大な経費がかかったと思いますが、どのようにしてそれを捻出したか全く知る由もありません。文明の発展した現代社会では、とても考えられないお業だと思えます。しかしながら、コンピューターが出現して、レコナーが無用になるまでの間、世界中の野球関係者の役に立てた功績は、大いに評価せねばならぬと考えております。本人も大いに満足していると思えます。



## 野球殿堂ホールリニューアルについて

館長 庄司 正信

2016年に発足したりニューアル検討委員会において検討された事項の一つに、野球殿堂ホールのリニューアルがありました。

当館が東京ドーム内に移設されてから約30年が経ち、野球殿堂入りされた方々は204名（2019年当時）となり、レリーフを掲額するスペースがなくなってきたことが、その理由です。

殿堂ホールの格調を維持し、今後10年程度耐えるレリーフの掲額スペースを確保する手段として、「スペースを作り出すため、隣接する区画の壁を取り払う」、「殿堂ホール内に新たな壁面を設置する」、「掲額展示用什器を設置する」などの案が出ました。

検討を重ねた結果、掲額展示用什器を設置する案を選択し、下記の団体にご協力をいただき、2019年10月29日(火)に設置いたしました。



新しく什器が設置された野球殿堂ホール

### ご協力いただいた団体

一般社団法人	日本野球機構
公益財団法人	日本野球連盟
公益財団法人	日本学生野球協会
公益財団法人	全日本大学野球連盟
公益財団法人	日本高等学校野球連盟
公益財団法人	全日本軟式野球連盟
株式会社	東京ドーム

(順不同 敬称略)

ご協力いただきました団体の皆様には、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

新什器は、長さ3.5メートル、幅75センチメートル、高さ1.3メートルで台形状になっており、4台作成いたしました。(現在は3台使用)

1台に12枚のレリーフを飾ることができ、合計で48枚掲額できます。

現在は2014年に殿堂入りされた野茂 英雄さんから、昨年殿堂入りされた脇村 春夫さんまでの24名が掲額されています。

是非リニューアルされた殿堂ホールをご覧ください。

## 展 示

2019年11月2日 ・会期 ~2020年3月1日(日)

### 写真展「星野“ジョー”光弘氏が見た日米野球のスターたち」

野球殿堂博物館では、昨年4月、故・星野 光弘(ほしの てるひろ)氏のご遺族より、同氏の撮影した日米野球関係の写真アルバムをご寄贈いただきました。星野氏は、98年(大リーグ選抜)まで約半世紀にわたり、日米野球で来日した米国チームのサポートを務め、多くの選手たちから親しまれました。

今回、報知新聞社の蛭間 豊章記者の橋渡しで、アルバム14冊、写真で約1,400枚の資料等を当博物館にご寄贈いただき、選りすぐりの日米のスーパースターの写真33枚をパネルにして展示しています。



2019年11月19日

### 第2回 WBSCプレミア12 優勝トロフィーおよび関連資料 展示

野球日本代表侍ジャパンが初優勝を果たしたプレミア12の優勝トロフィーや、決勝戦で山田 哲人選手が放った決勝3ランホームランボール、MVPを受賞した鈴木 誠也選手の使用バット、代走としてチームの勝利に貢献した周東 佑京選手のスパイクなどを11月17日(日)の決勝戦終了後に収集し、休館日をはさんで翌19日(火)より公開しました。3月1日(日)まで、企画展「野球報道写真展2019」にて展示中です。



2020年1月18日 ・会期 ~2020年2月24日(月・休)

### 川上 哲治生誕100年記念展示「監督 川上 哲治と“V9”巨人軍」

熊本県人吉市及び熊本市で実施中の「川上 哲治生誕100年記念事業」に連動して、当館では「監督 川上 哲治と“V9”巨人軍」と題し、川上氏の監督時代を紹介する記念展示を開催しています。

川上監督の旧蔵品や、当時のメンバーに関する資料約20点を展示し、川上監督とV9時代の巨人軍を紹介しています。



## 「第4回 野球で自由研究！」コンテスト

野球殿堂博物館では、「第4回 野球で自由研究！」コンテストを開催しました。作品募集期間は8月1日(木)から9月30日(月)までで、過去最高の107名から応募がありました。

10月10日(木)に、山中 正竹氏(2016年野球殿堂入り、全日本野球協会会長、法政大学元教授)、ジョイス・津野田 幸子氏(1977年野球殿堂入り 西村 幸生氏長女、ハワイ大学 コミュニティ・カレッジズ元総長)、田原 淳子氏(国土館大学 体育学部子どもスポーツ教育学科教授)、庄司 正信館長の4名の審査で行われました。

厳正な審査の結果、最優秀賞には東京都4年・澤田 晴さんの「平成元年と令和元年のプロ野球選手くらべ」が選ばれました。澤田さんの作品は、平成元年と令和元年の選手について、「プロ野球選手名鑑」をもとに比較した、ボリューム満点で、よくまとめられた内容でした。

優秀賞には東京都4年・島原 悠颯さん、神奈川県3年・塚本 皐太さん、神奈川県3年・萩原 遼大さん、東京都6年・庄子 大皓さん、アイデア賞には東京都6年・山本 蒼真さんの作品が選ばれました。

「第4回 野球で自由研究！コンテスト」の最優秀賞・優秀賞・アイデア賞に輝いた作品はこちらのアドレスからご覧ください。  
[http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/award\\_2019.html](http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/award_2019.html)

選ばれた6名の作品は、11月30日(土)から1月5日(日)の期間、「第4回 野球で自由研究！コンテスト作品展」として、その他の一次選考通過作品とともに展示しました。12月1日(日)には表彰式を行い、審査員による講評の後、それぞれに賞状が贈られました。また、副賞として最優秀賞の澤田さんには、侍ジャパンの稲葉 篤紀監督のサインボールが、その他の5名にはサイン色紙が贈られました。

表彰式のあとの懇親会では、受賞者とそのご家族、審査員のみなさんなどが出席し、ご家族同士、また審査員と歓談されたりと、和やかな会になりました。

このコンテストは、当館のミッションである「次世代を担う子どもたちへ、野球の魅力や楽しさを伝え、「ひろげる」ため」の中心的活動であると捉え、今後も続けていきます。



## 野球殿堂博物館 トピックス (2019年12月~2020年1月)

19年12月13日(金)

金田 正一氏ご子息・金田 賢一氏ご来館 「ベストショットオブザイヤー-2018」日刊スポーツ・菅カメラマンを表彰!



10月6日に逝去された金田 正一氏(1988年野球殿堂入り)の功績を改めてご紹介する追悼展示を開催(12月13日(金)~20年1月13日(月))、国鉄スワローズ時代のユニホームや、完全試合記念プレートを始め、ご家族で大切に保管されてきた貴重な資料を公開しました。

会期初日にはご子息の金田 賢一氏のご来館。展示をご覧いただき、お父様の思い出をお話しくださしました。

企画展「野球報道写真展 2018」の来館者によるファン投票「ベストショットオブザイヤー 2018」で、最多の404票を集めた「大谷とイチローのおかげっこ」を撮影した、日刊スポーツ・菅 敏カメラマンの表彰式を、企画展「野球報道写真展 2019」のオープニング見学会の前行いました。



「野球報道写真展2019」オープニング見学会に吉田 輝星投手ご来館!



企画展「野球報道写真展 2019」のオープニング見学会を実施し、北海道日本ハムファイターズの吉田 輝星投手にご来館いただきました。本展にて展示している吉田投手の初勝利の試合等の写真パネルに記念のサインを書き入れ、展示をご覧いただきました。

企画展「野球報道写真展 2019」は、12月14日(土)~20年3月1日(日)まで開催予定です。



20年1月10日(金) プロ野球新人選手、審判員110名来館!



「2020年 NPB新人選手研修会」に先立ち、新人選手と審判員計110名が来館しました。選手たちは、それぞれの球団ゆかりの資料やプロ野球の歴史に関する展示、野球殿堂ホールなどを40分ほどかけて見学しました。

また、東京ヤクルトスワローズ 奥川 恭伸投手、千葉ロッテマリーンズ 佐々木 朗希投手には、3月1日(日)まで開催中の企画展「野球報道写真展2019」に展示されているご自身の写真に、サインを書き入れていただきました。

なお、この見学会は、午前中を休館して開催しました。

奥川 恭伸投手



佐々木 朗希投手

博物館からのお知らせ

▶理事会

10月30日に都内ホテルにて理事会を開催致しました。

議題 1. 諸規程の制定及び一部改正について

2. 会議日程等について

報告 1. 特別表彰研究会からの報告

2. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について

3. 職員の退職について

4. その他 以上

▶退職

当館司書の小勝 洋平が2019年7月31日付で退職いたしました。

▶物販

●野球守2020緑 発売!

販売価格：800円(税込)

以前より大好評いただいております野球守に、新しく緑色を加わりました!

2月より、販売を開始しております。どうぞお求めください。



「野球守」は……  
“けがをしないよう”“野球が上手になるよう”“野球の試合に勝てるよう”など、皆様の野球を応援するお守りで、袋の中にはグローブの革で作られた内符が入っています。

昨年の野球守は、入口横の返納箱までお持ちください。



▶訃報

2006年野球殿堂入りの高木 守道氏が1月17日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

▶図書室

図書整理のため下記の期間、図書室は休室します。

2020年2月1日(土)~21日(金)

ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。

博物館のご案内

場 所	東京ドーム21ゲート右
開館時間	3月1日~9月30日 AM10時~PM6時 10月1日~2月末日 AM10時~PM5時 (入館は閉館の30分前まで)
入館料	大 人 600円(500円) 高・大学生 400円 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
休館日	月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館) 年末・年始(12月28日~1月1日)

《2月・3月・4月の休館日》

2月	3日・10日・17日
3月	2日・9日・16日・23日
4月	6日・13日・27日

●編集後記 今年には3名の方が殿堂入りされました。殿堂ホールもレリーフを掲額するスペースが増え、令和になって初めての殿堂入りの方々をお迎えます。

野球殿堂博物館 Newsletter 第29巻 第4号

2020年2月13日発行(年4回発行)  
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆 (75)

#### 変わる野球中継の現場で感じる事

競技者表彰委員会幹事 坂梨 哲士 (日本放送協会)

福岡県大牟田市に住んでいた私の祖母は巨人ファンでした。原 貢監督率いる三池工業高校の甲子園優勝(1965年夏)もあり、大牟田には原ファン、巨人ファンが多かったと聞きます。子供の頃祖母の家に行くといつもテレビで巨人戦がついていて、巨人が負けているとチャンネルを変えるという祖母でした。大牟田に限らず、昭和の時代は夕飯時にお父さんがビールを飲みながら、巨人戦を見るという家庭も多かったと思いますが、今はチャンネル権をお父さんが持てなくなった? こともあるのでしょうか、次第に視聴率も伸び悩み、地上波の全国放送も少なくなっていました。

その一方で、北海道や広島など、いわゆる「地方球団」のテレビ中継は、それぞれの地域で、以前よりも多くの方たちにご覧いただいています。各球団が地域に密着してさまざまなファンサービスを展開していることもあり、地元のチームや選手の活躍をテレビで応援したいという方が増えているのではないのでしょうか。

現場で取材をしていると、ここ数年で、プロ野球ファンの傾向や気質が変化しているように感じています。そう思うようになった理由が、スマートフォン(スマホ)の普及です。今や、スマホは、情報を入手する上で欠かせないツールになっていると言っても過言ではありません。ファンは、ちょっとした空き時間や通勤時間に、プロ野球に関するニュースのほか、選手自身がインスタグラムやツイッターといったSNSで発信するコメントなど、様々な情報を、豊富に、かつ手軽に得られるようになりました。その中で、選手の個性やプライベートに、より興味を持つファンが増えているように感じます。

さらに、スマホの普及で利用者が増えていると思われるのが、「一球速報」です。テレビやラジオを視聴しなくても、試合の様子をほぼライブでチェックできるようになりました。試合経過はもちろん、1球ごとの球種まで網羅されています。速報は全試合配信され、家にいなくても、電車の中でも、勤務先でも、スマホがあれば気軽に確認することができる時代になっています。

そうした状況で、いかにテレビやラジオの野球中継を視聴してもらうか。実況アナウンサーとしてできることは、原点に戻ってしっかり野球を見つめることだと思っています。試合や練習をしっかりと見て、自分なりの視点を持って具体的な質問を選手・コーチにぶつけていけば、ファンの知らない情報を得られるかもしれません。また、一球速報に負けないためには「結果」だけではなく「経過」を伝え、「先読み」につなげていくことが大切です。「なぜこういう結果になったのか」、そして「この先どうするのか、どうなるのか」、お話しするのは解説者ですが、解説者に水を向けたり二の矢を継いだりする際の、実況アナウンサーの野球を見る目が問われます。球場に通い、練習を見て、選手・コーチに話を聞き、野球を見る目を養うことで、ファンが「へー」と思い「ワクワクする」放送につながればと考えています。

とにかく変化の早い世の中、5年後10年後はどういう時代になっているかわかりませんが、「やっぱりテレビ・ラジオのプロ野球中継は面白い」と言ってもらえるよう、その時代の中で、常に考え続けていく必要があると感じています。そして、これからもテレビ・ラジオで野球の魅力を発信し続け、野球人気の継続と発展に微力ながら貢献していきたいと思っています。